



大成殿前の柱
(阜曲)

大成殿前の柱即ち前柱はもと十柱、周りに凡そ八尺、堅瑩璞の如き灰白色の石を以て成り、それに所謂纏柱の雲龍を刻す。技神に入り將に飛翔せんとするの概がある。雍正帝が國帑鉅萬を發して建造したもので、その結構は北平紫禁城の保知太和の各殿これに比し得べく、他に類を見ない。殿側殿後の石柱は牡丹の花を刻し、殿内の諸柱は木接の楠を以て成る。

(一九二九撮影) (印畫の複製を禁ず)